

## 平成 26 年度第 1 回岩手県被災地健康支援事業運営協議会 会議録

日 時：平成 26 年 9 月 5 日（金） 13：30～15：00

場 所：プラザおでつて 3 階大会議室

出席者：29 名（委員 16 名、代理 2 名、アドバイザー 2 名、事務局 9 名）

傍聴人：4 名（報道機関 4 名）

### 1 開会

### 2 あいさつ（保健福祉部長）

- ・県においては、今年度を「本格復興推進年」と位置付け、様々な関係機関・団体等と連携しながら、復興への取り組みをさらに推進しているところである。
- ・応急仮設住宅等での生活の長期化により、被災者の方々の健康状態の悪化が懸念されることから、被災県に交付された健康支援事業臨時特例交付金を活用し、保健師等の人材確保や被災者特別健診、被災者健康づくりサポート事業に対する補助等を実施するなど、被災市町村の健康支援活動の支援を行うことにより、被災者の健康の維持増進を図っているところである。
- ・本日、御報告いただく被災地の健康課題を踏まえ、被災地の健康支援の取組について、本協議会での意見を、今後の被災地の健康支援に反映させていきたいと考えている。

### 3 議事

#### (1) 情報提供①「東日本大震災津波後の健康課題について」

（資料 1 により報告：岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 坂田清美 教授）

##### 【質疑応答】

（菊池委員） 分析をしていただき健康状態が良く見える結果だと思う。現在、仮設住宅での生活が長期化し、夜眠れないということで相談に来る方や、建設課に来てから健康福祉課に相談に来る方も増えていて、本当にハイリスクの人への対応が必要だなと感じている。

（古川委員） 仮設生活が長期化する中でやはりいろんな健康被害がでてるのがわかった。これから復興が進む中で、それに伴って格差というものが生じてくれば、影響も増大すると思われる。

（小原委員） 予想されたとはいえ、きちんとできるものですね。

（坂田委員） 解決したと思われる方もいると思うが、実際には決してそんな事はなくて、より問題がスポット化して、どう対応するかというのは、こういった調査をしないと分からない。全体で見ると何かもう良くなってるみたいな印象になるが、決してそんな事はなく、まだまだ色んな対策が必要な人が地域には沢山残されているという事が、非常に大事なポイントだと思う。

#### 情報提供②「平成 25 年特定健診実施結果について」

##### 【質疑応答】

（藤原委員） 久慈市は脳卒中の死亡率が男性で県内 1 高い状況にある。保健師が家庭訪問等で回っても実際いるのは高齢女性の方で男性に直接指導することが難しい。

人との結び付きのところで不安を抱いている人がいる。件数的には多くはないが被災した方たちの置かれている状況というのを感じている。うつ病の K 6 の重症群に改善がみられないということについては、人数的はそんなに多くはないが、依然として変わらない体調不良を継続しているというところがあるので、今後も継続的な取組が必要と感じている。

(坂田委員) 高齢者が増えているという影響もあるので、細かいところを見るには年齢調整したうえでみるとよいのではないかと思います。基本的にはこれをベースにして各市町村が活用していただければよいと思う。

(鈴木委員) 医療機関を受診して薬をもらう人が増えているっていった時に、どうしても被災地では、まず、発災当初の避難所の時には医療看護チームがかなり多く入ってきて、一時的に投薬が増えた事実があるが、その後、各地域の医療機関の機能が再建し、震災後の方が医療機関を受診する人が増えている事実が各地域から聞こえている。これは果たして震災の影響なのか、あるいは震災があったからこそ地域、市町村などのいろんな活動があつて受診する人が増えているのか、なかなか地域でもはっきりしないところである。それについて何か考えられることはあるか？

(三浦主任専門研究員)

そういった地域の実情等を踏まえた調査ではなく、健診の分析のみとなっている。

(鈴木委員) 坂田先生のところでチームでやっている調査について、住民の健康支援、施策につながると実感しており本当に感謝申しあげる。

先生に1つご助言いただきたい。よりハイリスクの方々に更に重点的により力を入れていくことは、確かに先生の調査や健康相談、いろんな研修の機会を捉えて同じように感じているが、それと同時に大震災前からの岩手県の健康課題を考えると、やはりハイリスクの対象者により強固に対策を立てないといけない、その一方で、それ以外の人達を全体にどうアプローチして行ったらよいか、あるいは地域では限られた人材、様々な課題があつてどう取り組んだらよいか、今後、ぜひ先生にご指導いただきたいという風に複数の保健所からコメントがあつたのでお伝えしておきたい。

(坂田委員) まさに先生のご指摘のとおりでして、特定健診の結果からはハイリスクって言うのはきれいに見えてくるが、もともと岩手県の課題の、例えば、脳卒中の死亡率全国1つという状況から離脱するためには、ハイリスクだけアプローチしても全く解決には結び付かないこともあるので、例えば、血圧が全ての市町村でどんどん下がっていくというデータが示されるようなアプローチが、ぜひ、本当はそこが非常に大事なところである。健康いわて21の中でのいろんなすばらしいプランを既に作っているので、後はそれをいかに実践していくか、長野県のように隅々まで浸透させると言う、これはもの凄く大変な労力がある仕事であるが、一朝一夕で出来る話じゃないけれども、やはりそこを目指して県を挙げて取り組んで行く事がぜひ必要かと思う。そう言う意味では保健所長さんのお力が本当に重要だと思うので、ぜひまた一緒に取り組んで行ければと思う。

先程、先生がご指摘した資料については、初年度の解析では明らかに、高血圧の費用で3%増えており、これは震災の影響と言うのが明らかに出ている。避難所等で保健師さんが入って、高血圧が明らかに増えていたことへの保健活動と、医療費の政策とが上手く結びついて治療に結びついたということは、昨年度の解析はまだ出来ていないが、平成23年度の調査ではできているところである。

- (2) 健康いわて21 プラン(第2次)について
- (3) イー歯トープ8020 プラン
- (4) 今後の被災地健康支援対策について

} (資料3～5により事務局から説明)

## 【質疑応答・意見】

(古川委員) 今、用意されている事業メニューの中で、保健師、栄養・食生活の支援と言うことで専門職の派遣という事業、保健師等人材確保支援と言うことで専門職を雇用した場合の経費の補填という事業があるが、お願いしたいのは、保健師の確保のことになる。

1点目の方でいくと、特定の事業をする際にピンポイントで職員を派遣していただくと言う事業かと思うが、それは利用させていただいているが、2点目の方は、あくまでも自ら雇ってそれに対する経費を補填するということであるが、今、我々が欲しいのは平常の業務を行っていただく保健師そのものを長期的に派遣していただけないかということである。

実はうちの方で、新規に職員募集もしているが、なかなか募集をしても任期付きの職員を含めて集まっていけないという現状がある。それから応援の職員も3~4年経つので尻窄みになって来ている様な状況である。17名の保健師の正職員の体制があるが、一週間位の間で産休で休む職員が3人程立て続けにあると言う様な状況になっている。加えて、病欠ということもあり、なかなか平常の業務を担う職員の確保が出来ないという見通しもあり、何とかその辺の新たな事業が組めないのかどうかというのが、これが1点である。

もう1点は、健康づくりサポート事業について、これも平成24年度からの事業という事で大変使い勝手がよい被災者健康支援ということで我々も利用させていただいている。昨年うちの方では高齢者の肺炎球菌ワクチンの予防接種ということで、この事業を充てて実施した経緯がある。今年度は、ロタウイルスの予防接種を計画してこれを事業化して、すでに26年度スタートしたところであるが、6月30日付けで県のほうから、このサポート事業については、予防接種に充ててはならないという文書が入り、年度途中でこれをいただいて、うちの方でも困惑している様な状況であり、この件についての見解を聞かせていただきたい。

(應家委員) 岩泉町の状況としては、健康の関係は、大体、通常的に推移はしてきて、あまり悪くはならない状態で推移してきているが、精神面でどんどんキツくなってきている感じである。特に復興が進むにつれて新居を構える者、災害公営住宅に移る者が出て来て、仮設住宅に残っている人達が将来の不安を抱えて精神的にまいっていると言う状況が出てきている。多分この新事業っていうのは、ある程度の所で区切りが付くと思うが、さっきの仮設に居れば長期化すればリスクがあるという話もあるので、出来れば仮設が撤去するまで、何とか何らかのフォローを、市町村もするが、県の方でも続けて欲しい。

(佐藤委員) 田野畑村では、住宅関係の補填は早い方で、半分位は移っているが、現在、災害公営住宅に移っている人も居るが、応急仮設住宅に残る人が段々に少なくなっている状況である。今、村の中には移転団地と津波で被災しなかった沿岸の残った人達の気持ちというか、その辺が被災者と被災者じゃないその辺のところ、コミュニティーをまた元に戻す場合に問題が少し出てくるのではないかと感じている。

(藤原委員) 先程、釜石市さんが話されていたように健康支援に係る保健師の人材がとても少ないという状況がある。うちの方も3人位産休という状況があり、募集してもいない状況。そういう意味では長期に働けるような事をしないと来てくれないということがあると思うので、その辺を看護協会さん等と連携しながら何とか支援をしていただければよいと思う。

それと、健康づくりサポート事業について、今、初めて高齢者肺炎球菌ワクチンをやったとを知り、びっくりしたが、いろんな事業ができると思うが、大体こんな事業ができますよというのを、資料として付けてはもらってはいるが、支援事業一覧を作っていただけるとありがたいと思う。

(坂下委員) 普代村ですが、特にないんですが、特定健診と補助を入れながら、受診者の負担をなくする

様にしているので、補助の継続についてよろしく願います。

(村上委員) 洋野町では、3.11の大震災津波では人的な被害は幸いなかったが、漁業者の方で漁業施設はかなりの被害があった。

環境保健研究センターから、特定健診を受診された方、年齢構成で若い方が2割程度と説明があったが、洋野町でも、やはり受診率が低く、若い方がどうしても受けないということが多く、若い方は働いている方もいるので、どこの市町村もやっていると思うが、健診の期間中に日曜日とか土曜日、平日でも17時から18時30分まで受付して対応してきたが、それでも受けしてもらえないという現状がある。

被災地健康維持増進費の、健康支援事業情報交換会については、どういったところをメンバーに考えているのか教えていただきたい。

(事務局 総括課長)

ワクチンの関係が釜石市さんからあったが、被災地健康支援事業については、国の特例交付金を活用して行っているものである。事業の目的があるわけで、国の方にこういった事業についてやって良いかどうかを国に照会して実施しているが、6月30日付けでお知らせしたロタウイルスのワクチン接種の関係については、国に照会した結果、これについてはふさわしくないとの回答があり、そのような結果になったものである。

平常業務の方で保健師さんの確保が非常に困難な状況になっているという事で、複数の市の方から話があったが、任期付の職員とか派遣の方の職員についても確保が非常に難しいという事で、長期に派遣してもらえるような事業を組んでももらえないかということについては、被災地健康支援事業の中でやれるかどうかということについては、検討しなければならない問題であるので、これについては、検討させていただきたい。

(東北厚生局 小嶺医事課長)

東北厚生局としては震災後、復興支援対策本部を立ち上げ、現在も継続して情報収集を行っている。主には県の事業として行われているところのケアセンターの事業について、継続していただきながら支援させていただいているところである。

本日いろんなデータを見せていただき、精神的なサポートの必要性や、健康面についてはハイリスアプローチからポピュレーションアプローチもまだまだ対策としては必要と言うところを改めてデータとして見せていただき、更なる支援の必要性というのを感じたところである。継続的にこれからも支援は続けさせていただくが、厚生労働省の担当課にも、本日いただいたご意見を伝えさせていただき、その支援が途切れる事がない様に私達も尽力していきたいと思っている。

今、地域包括ケアということを盛んにいっているが、正に今、皆様方が取り組んでいることが、そのものというの間違いなくて、その方法論として地域の課題をデータで分析して、関係機関、医師会、歯科医師会等が連携をしてデータを分析して、それを県が支えて行く、更に国が支えて行くという方法が方法論というのは正に国が進めているものである。まだまだ大変だとは思いますが、是非これからも続けて私どもに出来る事をして行きたいと思っている。

(東北厚生局 佐藤企画調整課長補佐)

坂田先生の数字で出していただくと、まだまだ被災地が厳しい状況にあるということを変更して実感した。坂田先生から伺った、悪化ではなく、むしろ改善が見られないということ、より問題がスポット化したというのは凄く私の心に残った。支援する側としての1年目から2年目、2年目から3年目と、どんどん求められるニーズが変化している。東北厚生局もより新しい情報を皆さんからいただいて本省の方に伝えて復興、復旧に向けて少しでもお役に

立てればと思っている。

(根子保健福祉部長)

今日は委員の皆様から色々ご意見をいただき、坂田先生からも詳細なデータをいただいた。私どもとしても、これまでの復興状況や意見を踏まえながら、今年度の事業は今年度の事業を進めつつ、来年度以降どうしていくかということ、応急仮設住宅の撤去まではという意見もあったので、そういったことも含めて国の方にも要望を届けながら、必要な施策を検討して参りたい。いただいたご意見については内部で検討し各市町村にかえしていきたい。今日はいろいろ参考となるご意見をいただき感謝申し上げます。